

●ボランティアに関する講座や研修①

◆ボランティア入門講座（詳しくはP 93～95）

ボランティア初心者向けの体験活動を伴う全3回連続の講座を、5～6月に実施しています。第2回のボランティア体験では、8か所に分かれて約90名が活動しました。



◆海外体験学習プログラム（詳しくはP 81～91）



海外でのボランティア等に関心のある本学学生に向けて、貧困・福祉・環境問題など様々な課題を抱える国を訪れ、その現状に触れながら現地のNPO・NGOなどとの交流を通じて体験的に学ぶプログラムを、夏期・春期の長期休暇中に実施しています。写真は、今夏の海外体験学習プログラムで行ったインドネシアでの様子です。

◆国内体験学習プログラム（詳しくはP 67～80）

国内のさまざまな地域の住民、NPO等との交流を通じて、地域の抱える問題に触れると共に、ボランティア等の体験学習を通じてより深く社会の問題について考えるきっかけを作るプログラムを、夏期・春期の長期休暇中に行っています。写真は、今春の国内体験学習プログラムで行った福島県と、滋賀県高島での様子です。



福島県のプログラム



滋賀県高島のプログラム

●ボランティアに関する講座や研修②

◆オリエンテーション合宿（詳しくはP99～101）



新しく入った学生スタッフがセンターの目的や学生スタッフの役割を理解し活動するために、深草・瀬田の学生スタッフと教職員が集まって、毎年合宿を行っています。新たな大学の研修施設が建設中のため、2018年度は宿泊をせず深草キャンパスで2日に渡って実施。90名が参加し、学生スタッフとして気持ちを新たにスタートしました。

◆夏合宿・春合宿（詳しくはP101～107）



瀬田キャンパス夏合宿の様子



深草キャンパス春合宿の様子

学生スタッフの成長や資質向上を目的に、両キャンパスそれぞれが年2回の長期休みに1泊2日で合宿を行っています。夏合宿では、前期の活動から見てきた課題をもとに後期の活動について話し合います。そして春合宿では、後期の活動および年間の振り返りを行い、新年度の目標などについて確認します。



●ボランティアに関する講座や研修③

◆ボランティアリーダー養成講座（詳しくはP96～97）

ボランティアやサークル活動などを行っている学生を対象に、スキルアップ等を目的とした講座を年2回実施しています。第1回は「今、何が社会課題？～ひらめき、気づきを企画にしよう～」、第2回は「コミュニケーション力 UP～自分と周りがいきいき活動できるグループ運営のために～」をテーマに行いました。ワークショップも交えた実践的な講座となりました。



第1回の様子



第2回の様子

◆ボランティアコーディネーション力3級検定（詳しくはP98）

ボランティア活動をしている学生や市民活動に関わっている方がこれからの活動にも役立てられる「ボランティアコーディネーション力3級検定」。特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会と共催で、今年も本学にて実施し、学生・地域の方合わせて31名の受検者がありました。



◆大学生版災害ボランティアセンター講座（詳しくはP64）



災害ボランティアセンターでの運営スタッフや活動リーダーとして即戦力となる学生の育成を目的として、京都市社会福祉協議会が主催し、ボランティア・NPO活動センターが学内開催にかかる協力に携わっている講座です。前半は、災害ボランティアの変遷や活動する際の心得などを講義形式で学び、後半は参加者で災害ボランティアセンターのロールプレイ演習を行いました。



●近隣地域でのボランティア活動

◆サマーフェスティバル 2018 （詳しくはP 48～49）

深草キャンパス近隣の児童館に通う子どもたちに、夏休みの一日を楽しく過ごしてもらおうと始まった学生スタッフオリジナルのボランティア企画です。学内でも広く参加を呼びかけ、例年の2倍の学生が活動しました。



◆大津祭ボランティア （詳しくはP 50～51）

今年も国指定重要無形民俗文化財の大津祭に30名を超える学生がボランティアとして参加しました。ただ山を曳く、沿道整理をするだけでなく、祭り関係者や他のボランティア参加者、祭りを見学に来られた方ともお話をしたりと、学生達は伝統行事をとおして充実した時間を過ごしました。



◆深草ふれあいプラザ （詳しくはP 52～53）



深草地域 5 学区の地縁団体や小学校、行政などが協働して実施されている秋の恒例イベントです。このイベントに協力する中で、本学学生にボランティア活動や地域の方と交流する楽しさを知るきっかけにしよう、学生スタッフが学内で参加者を募集し、一緒に活動しました。



◆スペシャルオリンピックスを知ろう!

(詳しくはP 53～55)

本学学生に対してスペシャルオリンピックスの認知を広げ、障がいの有無に関係なく交流することを目的に、滋賀の団体と共催で実施しました。みんなで楽しめる競技内容を学生スタッフが中心となって考え、当日は約120名が参加し大盛況となりました。

◆南区民ふれあいまつり (詳しくはP 55～56)

京都の東寺境内で行われるまつりの『ちびっこひろば』という子ども向けのコーナーで、遊びのブースを運営する活動です。学生スタッフが工作アイデア等を考え、たくさんの子どもたちや家族連れでブースは大賑わいでした。



◆防災・減災そなえパークの日 (詳しくはP 57～58)

災害時に必要なことは、地域内の協力体制であり、そのためにも普段からつながりを持つことが大切です。瀬田キャンパス近隣で開催された「防災・減災そなえパークの日」にて、地域の人々と「防災・減災」について学びながら交流できるブースを出展しました。



●学内での啓発活動

◆広報誌の作成・配布（詳しくはP30～32）



深草は『ボラゴン』、瀬田は『Volunteer News』という広報誌を学生スタッフが作成し、年4回発行しています。ボランティア体験談やおススメのボランティア情報などを掲載するために、発行まで何度もミーティングを重ねます。



◆瀬田龍谷祭（詳しくはP39～40）

『つながり～今私たちにあるもの～』をテーマに、センターの活動紹介、サークル・地域の団体との関わり、ボランティア紹介、体験型コーナー、災害・防災コーナーなどに分けて展示を行いました。2日間で271名の来場者がありました。



◆深草龍谷祭（詳しくはP37～38）



『ボランティアの果てまでイッテQ!』をテーマに展示を行い、各種啓発コーナーでは、学生スタッフたちが来場者に向けて積極的に説明している様子が見られました。参加体験型のコーナーもあり、3日間で535名の来場者がありました。



◆Let's ボランティア (詳しくはP 33～34)

～ボランティアしようよ～

おススメのボランティア情報などをクリアファイルに挟んで、瀬田キャンパスの食堂前で学生スタッフが配布しました。また、興味あるボランティアにシールを貼ってもらうコーナーを設け、ニーズ調査も併せて行いました。

◆アタックボラセン (詳しくはP 35～36)

センターの認知度向上と学生へのアプローチ強化のため、前期はボランティアに対するアンケート調査、後期はそのアンケート結果を基にした広報活動やボランティア紹介を、学生スタッフが深草キャンパスの食堂などで行いました。



◆子ども食堂を知ろう！ (詳しくはP 40～42)

～大学生だからできること～

瀬田キャンパスで講演会とミニワークショップを開催しました。参加学生たちは講師の話に熱心に耳を傾け、ミニワークショップでは事例を基に自分たちだからできることを考え、意見を出し合いました。

◆私たちからあなたに伝えたい 3.11 ～あの震災を過去で終わらせない～

(詳しくはP 44～45)

東日本大震災復興支援ボランティアに参加した深草キャンパスの学生スタッフが、その活動を通して見たものや聞いたこと、感じたことを同じ本学学生に伝え、復興の現状や防災・減災について一緒に考えていくためのワークショップを開催しました。





●東日本大震災復興支援活動

東日本大震災の発災以降、龍谷大学では宮城県石巻市で復興支援ボランティア活動を毎年行っています。また、学内でも東日本大震災追悼法要や災害に関する啓発活動など、復興支援に関する取り組みを実施してきました。

2018年度も2回の復興支援ボランティア活動を実施し、いずれも防災教育を受講すると共に、地元の方から震災当時のお話を聴く機会も設けました。また、雄勝ローズファクトリーガーデンの整備活動も行いました。

◆防災教育：大川小学校を訪ねて



第1回の様子



第2回の様子

◆防災教育：旧雄勝小学校裏山を津波到達点まで登る



第1回の様子



第2回の様子

◆雄勝ローズファクトリーガーデンでの活動



第1回の様子



第2回の様子

◆雄勝湾灯籠流しの活動(第1回)



灯籠作りの様子



灯籠流しの様子

◆雄勝小中学校運動会の運営補助(第2回)



入場行進のプラカードを持って



運営補助の他、競技にも参加

◆学内での活動報告会



第1回活動報告会の様子(瀬田)



第2回活動報告会の様子(深草)

◆追悼法要



瀬田キャンパスの法要で活動報告した
学生スタッフ大屋さん



深草キャンパスの法要で活動報告した
学生スタッフ西山さん



●その他の災害復興支援活動（詳しくはP16～20）

2018年7月6日に発生した平成30年7月豪雨災害。被災地の学生、学友会中央執行委員会と学生スタッフが中心となって学内で募金活動を行った他、岡山県倉敷市真備町での復興支援ボランティアも行いました。炎天下でゴーグルと防塵マスクをつけた作業は大変過酷でしたが、水分補給や休憩をしっかりととり、誰一人熱中症になることなく活動できました。また、被災当日の状況や避難所での暮らしについてもお話を聞かせていただき、学生にとって本当に貴重な経験となりました。

◆学内での募金活動



瀬田



深草



大宮

◆真備町での復興支援ボランティア活動



道具を持って、活動先へ向かう



堆積した泥を土嚢袋につめる①



堆積した泥を土嚢袋につめる②



土嚢袋を車に積み込む